

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								3.3
Q1 室内環境					0.39			3.1
1 音環境				2.6	0.15	-	-	2.6
1.1 騒音				3.0	0.40	-	-	
1 室内騒音レベル				3.0	1.00	3.0	-	
2 設備騒音対策				-	-	-	-	
1.2 遮音				3.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能				3.0	0.88	3.0	-	
2 界壁遮音性能				3.0	0.10	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	0.01	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	0.01	3.0	-	
1.3 吸音				1.0	0.20	3.0	-	
2 温熱環境				3.0	0.35	-	-	3.0
2.1 室温制御				3.0	0.50	-	-	
1 室温				3.0	0.49	3.0	-	
2 負荷変動・追従制御性				-	-	-	-	
3 外皮性能				3.0	0.19	3.0	-	
4 ゾーン別制御性				3.0	0.32	-	-	
5 温度・湿度制御				-	-	-	-	
6 個別制御				-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮				-	-	-	-	
8 監視システム				-	-	-	-	
2.2 湿度制御				3.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境				3.0	0.25	-	-	3.0
3.1 昼光利用				3.1	0.51	-	-	
1 昼光率		保育室に大きな開口部を設けた。		5.0	0.10	3.0	-	
2 方位別開口				-	-	3.0	-	
3 昼光利用設備				3.0	0.90	3.0	-	
3.2 グレア対策				3.0	0.05	-	-	
1 照明器具のグレア				-	-	-	-	
2 昼光制御				3.0	1.00	3.0	-	
3 映り込み対策				-	-	-	-	
3.3 照度				3.0	0.02	3.0	-	
3.4 照明制御				3.0	0.41	3.0	-	
4 空気環境				3.7	0.25	-	-	3.7
4.1 発生源対策				4.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質		テナント内装含めてF の使用を励行する。		4.0	1.00	3.0	-	
2 アスベスト対策				-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等				-	-	-	-	
4 レジオネラ対策				-	-	-	-	
4.2 換気				3.9	0.30	-	-	
1 換気量				3.0	0.47	3.0	-	
2 自然換気性能				3.0	0.06	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮		給気はすべて屋上取り入れとする。		5.0	0.47	3.0	-	
4 給気計画				-	-	-	-	
4.3 運用管理				3.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視				3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御				3.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.4
1 機能性				3.7	0.40	-	-	3.7
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	-	-	
1 広さ・収納性				3.0	0.03	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応				1.0	0.03	3.0	-	
3 バリアフリー計画				3.0	0.93	-	-	
1.2 心理性・快適性				4.0	0.30	-	-	
1 広さ感・景観				3.0	0.36	3.0	-	
2 リフレッシュスペース		バルコニーやESCホールに休憩できるスペースを確保する。		4.0	0.28	-	-	
3 内装計画		内装デザインコンセプトに基づき全体をコーディネートする。		5.0	0.36	-	-	
1.3 維持管理				4.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		掃除のしやすい材料を選択する。		4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		設備点検口をすべてマンドアにするなどメンテナンスに配慮する。		5.0	0.50	-	-	
3 衛生管理業務				-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性				3.0	0.31	-	-	3.0
2.1 耐震・免震				3.0	0.48	-	-	
1 耐震性				3.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能				3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.33	-	-	
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.23	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.23	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.09	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.08	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.15	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.23	-	-	

2.4 信頼性			3.0	0.19	-	-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性			3.6	0.29	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり			4.6	0.31	-	-	
1	階高のゆとり	天井高さとも、十分な階高さを確保。	5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	耐力壁、ブレース等を設けない構造とし、自由度を確保。	4.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	3.0	-	
3.3 設備の更新性			3.3	0.38	-	-	
1	空調配管の更新性	天井内、PS内にスペースに余裕をとるこにより、構造部材を傷めず更新ができる。2も同じ。	4.0	0.17	-	-	
2	給排水管の更新性		4.0	0.17	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-	
6	バックアップスペース		3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.31	-	-	3.4
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		道路側のボリューム感を緩和する分節された壁面構成に配慮。また視点場(駅ローリー)からの建物見栄えに配慮している。	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.6
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.1
1 建物の熱負荷抑制		熱負荷抑制に配慮した外装計画。	4.6	0.27	-	-	4.6
2 自然エネルギー利用			3.5	0.21	-	-	3.5
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50	-	-	
2.2	自然エネルギーの変換利用	太陽光発電の採用。	4.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化		高効率機器の採用など。	5.0	0.31	-	-	5.0
集合住宅以外の評価(ERRによる評価)		ERR=62%	5.0		-	-	
集合住宅の評価			3.0		-	-	
4 効率的運用			3.0	0.21	-	-	3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.9
1 水資源保護			3.4	0.15	-	-	3.4
1.1	節水	節水型便器の採用など。	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.8	0.63	-	-	2.8
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.07	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用		1.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.05	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	LGS下地により仕上材が容易に分別可能。	4.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.22	-	-	3.0
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.68	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2の削減に寄与する計画。	5.0	0.33	-	-	5.0
2 地域環境への配慮			2.6	0.33	-	-	2.6
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善		2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	分別回収の徹底と十分な収容スペースの確保。	5.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.50	-	-	
2	振動		3.0	0.50	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	曇光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	